



特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会  
Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer (JAOSCC)

## 第1回学術大会

「がん口腔支持療法学の基盤づくりを目指して」

開催日時 2016年3月6日(日) 9:30~12:10  
会場 愛知県がんセンター 中央病院  
国際医学交流センター メインホール

大会長：曾我 賢彦(岡山大学病院 医療支援歯科治療部)  
実行委員長：長縄 弥生(愛知県がんセンター中央病院)

主催：特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会  
協力：公益社団法人 愛知県歯科衛生士会

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会  
Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer (JAOSCC)  
第1回学術大会

プログラム

■日 時：2016年3月6日（日）9：30～12：10

■場 所：愛知県がんセンター中央病院  
国際医学交流センター メインホール  
（名古屋市千種区鹿子殿1番1号）

9:30～9:35

開会の辞・ご挨拶

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会  
Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer  
(JAOSCC)設立にあたって

曾我 賢彦

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事長  
岡山大学病院 医療支援歯科治療部

9:35～10:20

講演1

がん治療に伴う粘膜障害対策の国際的な潮流  
—MASCC/ISOO 粘膜障害対策ガイドライン 2013年改訂版

曾我 賢彦

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事長  
岡山大学病院 医療支援歯科治療部

座長：森 毅彦

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事  
慶応大学医学部 血液内科

10:20～11:05

講演2

がん治療と歯科支持療法 ～過去から現在に至るまで～

百合草 健圭志

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 副理事長  
静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科

座長：長縄 弥生

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事  
愛知県がんセンター中央病院

11:05～11:15 休 憩

11:15～12:00

講演3

がん治療の QOL 改善のために

～注目されてきた口内炎対策としての漢方薬の価値～

細川 亮一

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 副理事長  
東北大学大学院歯学研究科予防歯科学分野, 東北大学病院周術期口腔支援  
センター

座長：勝良 剛詞

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事  
新潟大学 医歯学総合病院 口腔外科系歯科 歯科放射線科

12:00～12:10

閉 会 の 辞

細川 亮一

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 副理事長

# 特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer (JAOSCC) 設立にあたって

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会 理事長 曾我 賢彦

私は歯科医師になってからというもの、縁あって駆け出しのころから歯科の専門性を活かして病院の医療に支持的にかかわる仕事に関わってきました。日々展開される様々な医療において、適切な口腔の管理はその医療の質を大きく向上させ得ることを知りました。がん医療はその典型です。がん化学療法・放射線療法などは、口腔粘膜障害（口腔内の広範なびらん）などの口腔内の有害事象を起こすことが多くあります。がん治療による体の抵抗力の低下（骨髄抑制など）により口腔内感染巣は重篤な全身感染の原因となり得ます。適切な口腔内の管理はこれらの問題を軽減させ、闘病する患者の生活の質を大きく向上させ得ることを知りました。

このような口腔の管理は支持療法の一翼を担うものであるという意識を強く持つようになりました。海外への短期派遣を機として、2010年頃より Multinational Association of Supportive Care in Cancer / International Society of Oral Oncology (MASCC/ISOO)の会員として、国内外の専門家と議論を交わし合うようになりました。様々な討議と成果の発信という機会に恵まれ、MASCC/ISOO EVIDENCE-BASED CLINICAL PRACTICE GUIDELINE FOR MUCOSITIS SECONDARY TO CANCER THERAPY（がん治療に伴う粘膜障害に対するエビデンスに基づいた臨床診療ガイドライン）を策定するプロセスにかかわる経験をしました。国内の専門家とのネットワークもでき始め、2014年にこのガイドラインの学会公認日本語版を作成し、学会ホームページから公式に発信する成果も生みだしてきました。

ところで、海外の諸先生方と交流を持てば持つほど感じることもありますが、本邦におけるがん口腔支持療法は、国際的にみて相当に積極性と先進性があります。これほどまでにがん医療で口腔内の管理を実践している国は他にありません。支持療法としての口腔内の管理の在り方に関する議論は、がん化学療法・放射線療法のみならず、周術期医療一般でも活発になされ、地域・在宅医療の推進においても適切な口腔の管理の在り方の議論が極めて活発になされています。これらの内容については、国民皆保険制度を有する我が国において診療報酬制度として収載されるなど、国策として推進されています。

その日本において、がん口腔支持療法を討議し、その内容を国内のみならず MASCC/ISOO と強い連携を取りながら国際的に発信できる組織を立ち上げ、本邦の医療の質の向上に貢献するとともに、国際的な議論に一石を投じる基盤づくりを行えないものかと常日頃より考えてきました。

このような背景から、私たちは Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer

(JAOSCC)を 2014 年 11 月 1 日に立ち上げました。また、ISOO の会長 : Prof. Ourania Nicolatou-Galitis とともに相談を重ねてきました。そして志を同じくしてくださる方々の協力を得て、特定非営利活動法人格を取得し、この度、本日 2016 年 3 月 6 日に、ささやかな半日の会ではありますが、第 1 回の学術大会を開催するに至った次第です。

話が少々変わりますが、日本学術振興会科学研究費の申請に際して、時限付き分科細目に「ケア学」という分野が設定されていたことがあります。内容として非常に目に留まり印象的だったのですが、以下の内容でその分野の募集について説明されていました。

『少子高齢社会の問題、医療や看護の倫理的問題、子どもから高齢者までが抱える心の問題などの様々な背景から、21 世紀は「ケアの世紀」になると言われている。ケア (care) という語は、看護・介護・世話・手当・配慮・気遣いなど様々に訳されて、医療・看護・介護・福祉・心理・教育・倫理・哲学など様々な分野で使われ議論されてきたが、特定の訳語によって特定の分野に限定されることを避け、各々の分野を越えて議論する必要から、「ケア」という表記が定着してきた。1980 年代頃から、境界を超えたケアについての研究が現れ、その動向は 2000 年の介護保険の施行を挟んでますます広がっている。ケア学は、様々な学問分野に跨って多くの研究者が学際的に参加し、臨床やフィールドの現場に即した調査を行うとともに、文献調査や海外との学術的交流に基づく理論的研究を行うことで、独自の分野として確立されることが望まれている。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。』

ケア学の深さに反し、極めて現実的で浅い日本学術振興会の科学研究費の募集要項から引用することをお許し願いたいのですが、一方、強調したいのは、このような内容は分野を越えて議論する必要があるものであり、医学、看護学、社会福祉学、哲学、宗教学、経済、制度等々のタテワリ性をとことん排除し、越境する、その跳躍力なしには支持療法・サポーターケアの豊かさは捉えられないように思われます。

本会は既成の組織的な概念にとらわれず、ぜひ同じフィールドで活躍する様々な専門分野の方々と情報共有、意見交換そして交流を行う場でありたいと思います。設立当初の理事も医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士といった多職種で構成されています。

ぜひとも多くの皆様にご入会いただき、ともに医療に一石を投じるような活動ができればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## がん治療に伴う粘膜障害対策の国際的な潮流 —MASCC/ISOO 粘膜障害対策ガイドライン 2013 年改訂版

曾我 賢彦（そが よしひこ）  
岡山大学病院 医療支援歯科治療部

座長： 森 毅彦（もり たけひこ）  
慶応大学医学部 血液内科

### 講演概要

がん支持療法の国際学会で Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC)/ International Society of Oral oncology (ISOO) という学会があります。この学会では、支持療法の一環として、がん治療に伴う粘膜障害対策も重要なテーマとしています。 mucositis study group が臨床ガイドラインを作成し、数年に1度改定を行っています。

2011 年から改定の討議が始まり、日本から故 大田洋二郎先生（静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科）、森毅彦先生（慶應義塾大学医学部血液内科）そして私がこの作業に参画しました。システムティックレビュー（世界中の研究データ（論文）をくまなく探して内容をまとめる方法）で2010年12月31日までにMEDLINEに公表された論文を対象とし、約8,000の文献が対象となりました。2013年のMASCC/ISOO 年次総会で概要がほぼ固まり、発表に至っております（Lalla RV et al., Cancer. 2014 120(10):1453-61）。がん治療における粘膜障害対策は日本でも多く論じられており、様々な試みや議論がなされています。その議論に当たり、国際的な潮流を知るということはとても大切なことであるはずで、MASCC/ISOO のメンバーである森毅彦先生、細川亮一先生（東北大学大学院歯学研究科予防歯科学分野）、百合草健圭志先生（静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科）にご協力をお願いし、ガイドライン概要の日本語版を作成し、MASCC/ISOO のホームページで公開しています。本講演ではこの内容をご紹介します、「がん口腔支持療法学の基盤づくり」の議論のお役に立てればと考えております。

### 略歴

1998年 岡山大学歯学部卒業  
2002年 岡山大学大学院歯学研究科 修了 博士(歯学)  
2002年 岡山大学歯学部附属病院 医員(第二保存科)  
2003年 国立療養所邑久光明園 厚生労働技官 歯科医師  
2007年 国立療養所邑久光明園 厚生労働技官 歯科医長  
2008年 岡山大学医学部・歯学部附属病院(現 岡山大学病院) 歯周科 助教  
2008年 岡山大学医学部・歯学部附属病院(現 岡山大学病院)  
周術期管理センター歯科部門 部門長 兼任(～2010年)  
2010年 日本学術振興会特定国派遣研究者(オランダ)  
(Academic Centre for Dentistry in Amsterdam)  
2011年 岡山大学病院 中央診療施設 医療支援歯科治療部 副部長・助教  
2013年 岡山大学病院 中央診療施設 医療支援歯科治療部 副部長・准教授  
現在に至る

### がん治療と歯科支持療法 ～過去から現在に至るまで～

百合草 健圭志 (ゆりくさ たかし)  
静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科

座長: 長縄 弥生 (ながなわ やよい)  
愛知県がんセンター中央病院

#### 講演概要

がん治療時に起こる様々な口腔合併症を予防・軽減するために口腔ケアを代表とした歯科支持療法の意義や重要性は、近年広く認識されている。特に、がん治療開始前から口と歯の健康を整え、維持することは口腔合併症の予防・軽減だけでなく、がん治療を完遂するうえで大きな役割を果たしており、今では必須の支持療法といえる。

静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科では、全国に先駆けて2002年の開院当初からがん治療の一連の流れの中に歯科支持療法を取り入れ、予防的な介入により手術、がん化学療法、放射線治療による口腔合併症の軽減・予防に努めてきた。2006年からは院内だけにとどまらず、がん患者が安心して口腔ケアを受けられる社会基盤の構築を目指し、静岡県歯科医師会に所属する地域歯科医院と協働し連携登録医制度を整え、がん患者の地域医科歯科連携を開始した。この成果をもとに、2010年からは国立がん研究センター・日本歯科医師会と協力し、医科歯科連携の全国展開への準備をはじめ、2012年から厚生労働省委託事業「がん診療医科歯科連携事業」へと繋がった。この事業により育成された歯科医師は、2014年12月末時点で全国約12,000人以上が医科歯科連携の連携登録歯科医となり、歯科支持療法の担い手としてのサポート体制を整えている。

一方で、2012年4月からはがん治療時の歯科支持療法が社会保険歯科診療報酬に収載され、多くのがん診療連携拠点病院の歯科部門で歯科支持療法が実施されるようになった。しかし、全国の病院のうち歯科部門を持つ病院は20%にすぎず、いまだに多くの病院では歯科支持療法が実施できていない。2014年4月からは医科診療報酬でも歯科医科連携に関する加算が収載され、院外の地域歯科医院との連携体制の活用が望まれている。

がん治療における歯科支持療法は、がん治療においてもっとも重要な支持療法の1つである。本公演では、静岡がんセンターでのがん治療における歯科支持療法の歩み、およびがん診療医科歯科連携事業についてお話ししたい。

#### 略歴

2002年3月 北海道大学歯学部歯学科卒業  
2006年3月 北海道大学大学院 歯学研究科修了(歯学博士)  
2006年4月 静岡県立静岡がんセンター 歯科医師レジデント  
2009年4月 同歯科口腔外科 副医長  
2013年9月 同 医長  
2014年4月 同 部長  
現在に至る

### がん治療の QOL 改善のために～注目されてきた口内炎対策としての漢方薬の価値～

細川 亮一（ほそかわ りょういち）

東北大学大学院歯学研究科予防歯科学分野, 東北大学病院 周術期口腔支援センター

座長: 勝良 剛詞（かつら こうじ）

新潟大学 医歯学総合病院 口腔外科系歯科 歯科放射線科

#### 講演概要

私が参加した過去3年間、さらに本年に行われる MASCC の Annual Meeting において初日のメイン会場で行われる Workshop のテーマは Mucositis（粘膜炎）である。このことは、Supportive Care in Cancer（がん支持療法）において、粘膜炎が重大な懸念であることを示している。その中でも口腔粘膜炎は食事や会話に影響を与えるため、治療中の QOL の低下に直結する。Workshop や学会を通じて議論されたことは、粘膜炎のガイドラインの策定はもちろんのこと、ヒトケラチノサイト増殖因子（KGF）であるパリフェルミンや低出力レーザー治療（LLLT）の効果やその機序についてである。我々の研究グループは、口腔粘膜炎に対して効能が認められている半夏瀉心湯の基礎研究と臨床研究を行ってきた。半夏瀉心湯は、半夏、黄芩、乾姜、甘草、大棗、人参、横連からなる漢方薬であり、本発表ではその基礎研究と臨床研究の経過を報告する。

#### 方法

（基礎研究）

口腔上皮細胞である TR 1 4 6 を用いて、半夏瀉心湯の薬理作用について MTT assay、フローサイトメトリーを用いて細胞増殖能を検索した。

（臨床研究）

口腔内に 5 0 Gy 以上の照射を行う患者 8 名について、半夏瀉心湯による含嗽を行い、以前に照射を受けていた患者 8 名と粘膜炎のグレードとその継続期間を比較検討した。

#### 結果

細胞培養において、半夏瀉心湯によって制御された細胞増殖が起こることが示された。また、半夏瀉心湯による含嗽は口腔粘膜の悪化を抑制した。

#### 考察

今回、半夏瀉心湯を用いた口腔粘膜炎抑制の機序の一端を明らかにした。今後、他施設での二重盲検法など更なる検証が必要となる。今後、新薬による粘膜炎の発症も予測されることから、粘膜炎の予防法や治療法に関する研究は、本学会でのテーマとなる。

#### 略歴

1999年 東北大学 歯学部卒業

2003年 九州大学大学院歯学研究院修了

2003年 南カルフォルニア大学 歯学部 博士研究員

2009年 東北大学大学院歯学研究科 助教

2012年 東北大学大学院歯学研究科 講師

2014年 東北大学大学院歯学研究科 准教授

2015年 東北大学病院 周術期口腔支援センター長（特命教授）

現在に至る



特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会  
Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer (JAOSCC)

役員（2016年3月6日現在）

理事長	曾我 賢彦（岡山大学病院 医療支援歯科治療部）
副理事長	細川 亮一（東北大学大学院歯学研究科予防歯科学分野，周術期口腔支援センター）
同	百合草 健圭志（静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科）
理事	上野 尚雄（国立がんセンター中央病院 総合内科・歯科）
同	勝良 剛詞（新潟大学 医歯学総合病院 口腔外科系歯科 歯科放射線科）
同	伊藤 恵美（東北大学大学院歯学研究科 歯学イノベーションリエゾンセンター地域連携部門）
同	杉浦 裕子（岡山大学病院 医療技術部 歯科衛生士室）
同	高橋 郁名代（岡山大学病院 看護部）
同	赤川 順子（東京都健康長寿医療センター 血液内科 移植コーディネーター）
同	森 毅彦（慶応大学医学部 血液内科）
監事	丹田 奈緒子（東北大学病院 予防歯科）

ロゴマーク：



作者：大阪成人医療センター 歯科衛生士 大西淑美氏

MASCC/ISOO と並ぶ JAOSCC 日本を代表する富士山で表現しました。

日本の代表である富士山は四季折々、さらには見る角度からも多種多様な表情をみせ人々に感動と勇気を与えます。

JAOSCC が職種を超えたオールジャパンとなることをイメージして鏡富士を表現しました。